

第 2 章

将来都市像

- 1 まちづくりの課題
- 2 都市づくりの理念と基本目標の設定
- 3 都市づくりの基本目標
- 4 基本目標と方針の体系
- 5 将来都市構造

1 まちづくりの課題

都市の現況、策定のためのアンケート調査や各委員会で得られた意見をもとに、まちづくりの課題を以下の視点で整理します。

■人口の減少・少子高齢化への対応

羽幌町の人口は、昭和40年代には3万人を超えていましたが、羽幌炭鉱の閉山や国鉄羽幌線の廃止などに伴って大きく減少しています。平成19年現在の人口は約8,500人であり、計画目標年次である平成39年の人口推計を行いますと約5,500人という結果が出ています。

今後においても少子高齢化は進むものと想定されるため、高齢者が暮らしやすく、子育て環境の整備や若者にとって魅力を感じられるようなまちづくりを行い、人口減少に歯止めをかけるような対応が必要になっています。

町民アンケートより

もっと若い人達が住みやすい町づくりを行えば、戻ってくる人も増えるのではないのでしょうか。

小さな町でもよい。人情の厚い地域社会でありたい。

川北に商店が少なく、高齢者にとって不便である。

■自然環境の保全

羽幌町は、第1次産業を基幹産業として、豊かな自然環境とともに生活基盤を維持してきました。人と自然が共生する天売島・焼尻島は国定公園に指定され、離島観光の振興のためにも、自然環境の保全は大切な課題となっています。

さらに、羽幌町においては平成18年に環境保全条例が制定されており、今後とも全町的な環境保全の意識の高まりを維持していくことが重要になっています。

町民アンケートより

水質の改善が自然保護に役立ち、地域の豊かな暮らしに繋がっていくと思います。

自然林を生かし、育てる事が必要である。

■中心市街地の空洞化・空き地対策

羽幌町の商業地は、国道232号や南3条通を中心に発展し、かつては3万人の人口規模を背景に、複数の商店街を有する商業地域になりましたが、その後の人口減少や郊外型スーパーの影響などにより空洞化が進み、シャッターが降りたままの店舗が増えています。

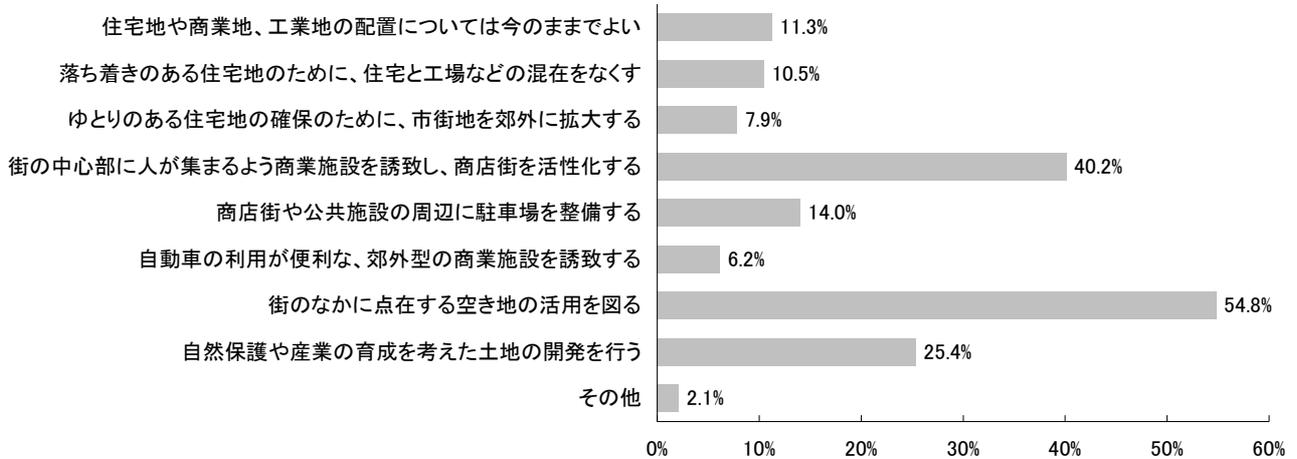
また、市街地には町有地を含めた空き地が点在しており、これらの空き地の活用により、街なかに賑わいをもたらす対策が求められています。

町民アンケートより

市街地の中に商店のある街づくりが必要。

街を歩いてみて、空き地が目立ち、街の形が徐々に失われつつあるように思われます。

〈土地利用について必要なこと〉



■交通網の見直し・身近な道路の整備

市街地の道路網は、国道232号を中心に基盤の目状に張り巡らされた形状であり、基本的には現状のままで十分機能を果たしていると言えます。今後は、現在計画中のフェリーターミナルの移転などに伴って、交通体系の変化に応じた整備・見直しが必要になっています。

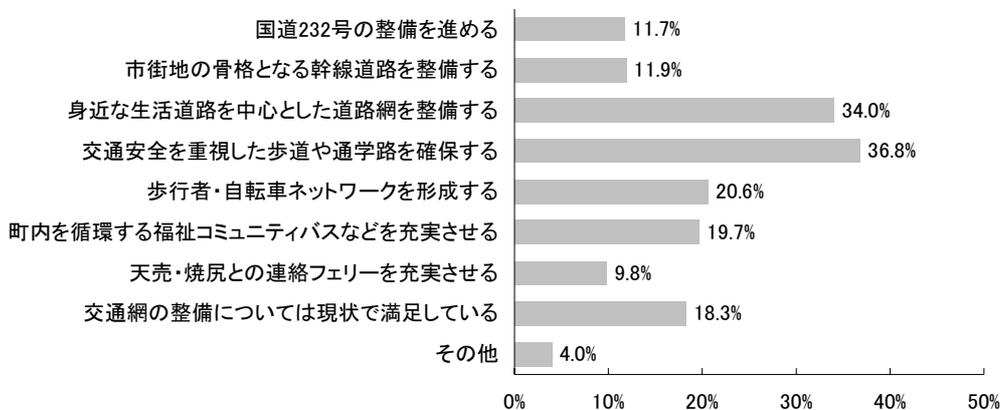
一方で、高齢化が進んでいるため、車に頼らずに生活できる生活環境の実現に向けて、安全性や歩くことに配慮した身近な道路整備が課題となっています。

町民アンケートより

必要のない道路は整備せず、身の丈にあった交通網を考えるべきである。

歩道に傾斜が多く、高齢者、子ども、車イスの通行が危険である。

〈交通網の整備について必要なこと〉



■潤いのある都市環境の形成

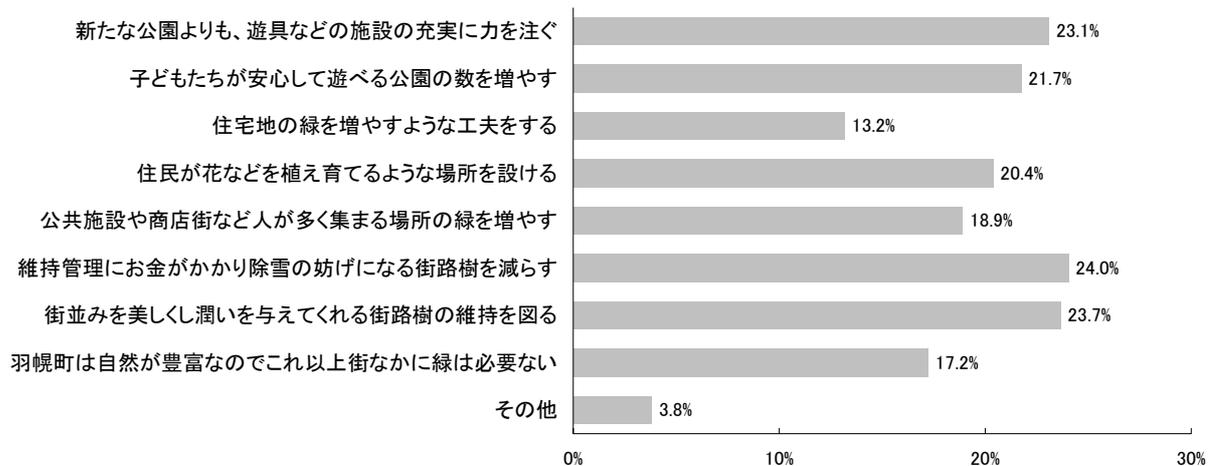
羽幌町の市街地は、中心部などで公園・緑地が少なく、また、一部街路樹が失われたままになっているなど、緑を活用したメリハリのある環境整備が必要となっています。

町民アンケートより

市街地中心部の空き地など、ただ空き地にしておかないで、子どもたちが身近に遊べる場所を考えてほしい。

桜並木が羽幌町のどこかにあったら良いと思う。

〈公園や緑、水辺の整備について必要なこと〉



■都市防災への対応

地震、火災、河川の氾濫、高潮など、いつ発生するかわからない災害に対して強い都市基盤の整備を進める必要があります。

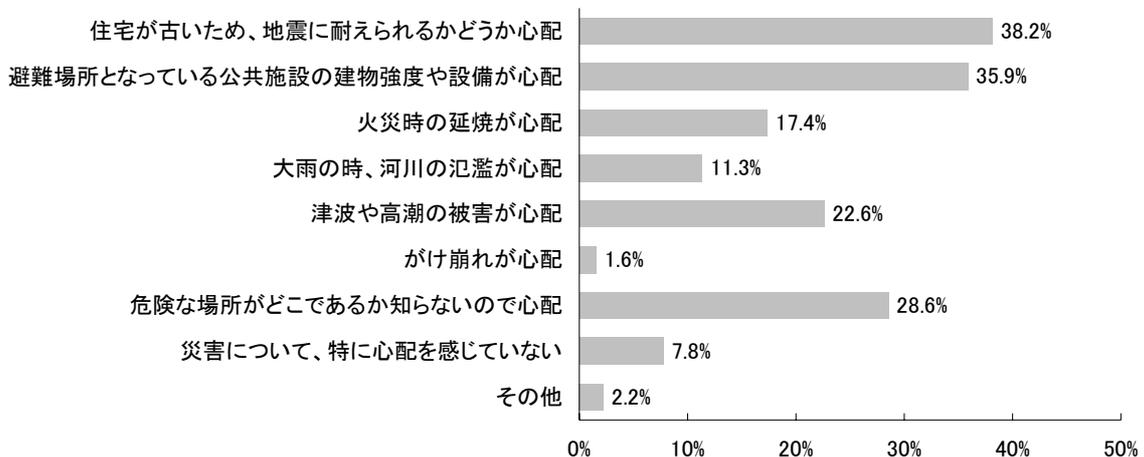
特に、一人暮らしの高齢者が増加しているため、その避難対策や避難場所の整備が必要になっています。さらに、老朽化した建物の耐震対策などが防災上の課題となっています。

町民アンケートより

特に高齢者や障害者に対する災害時の対策が心配と思われる。

一人暮らしなので避難に心配がある。

〈災害に対して心配に思うこと〉



■羽幌らしい街並み形成

羽幌町は、日本海の眺望を楽しむドライブルートとして有名な日本海オロロンラインの中間に位置し、天売・焼尻の両島、「サンセットビーチ」「はぼろバラ園」など豊富な観光資源があります。

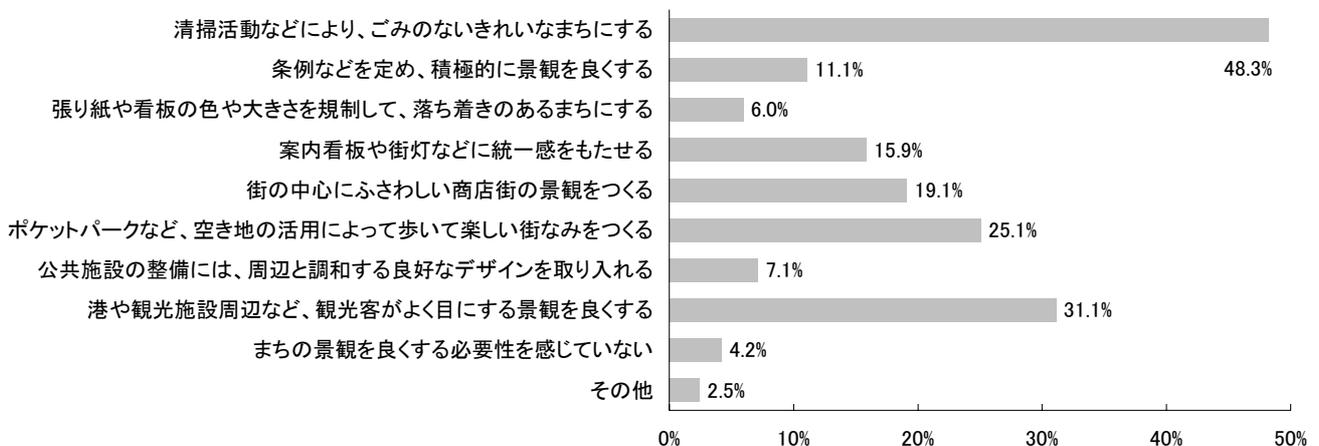
今後はこれらの資源を活用し、町民の景観形成への気運を高め、町民自らが誇れる羽幌らしい街並みを形成していくことが必要となっています。

町民アンケートより

羽幌町に住む住民の中に羽幌町の景観を愛している人が増えることが大切。

観光地として景観を重視してほしい。

〈景観を良くするために必要なこと〉



■周辺市町村との連携

羽幌町のみならず、他の留萌管内の市町村においても人口の減少は深刻な問題になっています。このため、周辺市町村との連携のもとに、都市施設の整備などを行っていくことが必要となっています。

また、観光などの産業振興の面でも周辺市町村との連携は有効な手段であり、協力体制のもとに取り組みを進めていくことが大切になっています。

町民アンケートより

我が町のことだけを考えていては、これからの発展は望めない。

オロロンライン沿線の市町村が協力した街づくりが必要。

■都市づくりへの町民参加

羽幌町では、町民の手によるビオトープ「自然空間はぼろ」などにより、既に町民の都市づくりへの参加が進んでいます。人口の減少や少子高齢化が進み、町の財政にも厳しさが増すことが予想されるため、今後ますます町民の協力体制により力を合わせた取り組みが必要となっています。

町民アンケートより

町民の協力を得て、拳町一致の明るい街づくりに努力していただきたいと思います。

これからはあまりお金をかけずに住みよい町になればと常に考えています。

2 都市づくりの理念と基本目標の設定

羽幌町総合振興計画の将来像や目標、まちづくりの課題などを踏まえ、都市づくりの基本理念と基本目標を以下のように設定します。

都市づくりの基本理念、基本目標

都市づくりの基本理念

人も自然も元気に生きる 交流と魅力にあふれるまち

少子高齢化や町の財政など、様々な問題を抱える今こそ、人と人とのふれあいを大切に羽幌町の魅力を引き出すことのできるような都市づくりを町民の創意工夫によって進めます。

都市づくりの基本目標

- ①交流と賑わいのある都市づくり
- ②安全で快適に暮らせる都市づくり
- ③自然を守り生かす優しい都市づくり
- ④羽幌らしい特色のある都市づくり
- ⑤町民みんなで進める創意工夫の都市づくり

羽幌町総合振興計画

羽幌町の将来像

『心と心をつなぐハートコミュニケーションはぼる』

まちづくりの目標

地域の自然が育む豊かなまち
誰もが居場所と生きがいを持って暮らせるまち
安心して魅力的な田舎暮らしができるまち

まちづくりの課題

- 人口の減少・少子高齢化への対応
- 自然環境の保全
- 中心市街地の空洞化・空き地対策
- 交通網の見直し・身近な道路の整備
- 潤いのある都市環境の形成
- 都市防災への対応
- 羽幌らしい街並み形成
- 周辺市町村との連携
- 都市づくりへの町民参加

全体構想へ

地域別構想へ

3 都市づくりの基本目標

基本理念に基づいて、これからの羽幌町が目指すべき都市づくりの基本目標を以下に示します。

① 交流と賑わいのある都市づくり

都市には、人と人が交流しあい楽しむ場所が必要です。そんなふれあいの場所を大切にして街なかの魅力をつくり、賑わいづくりや活性化に結びつけていきます。そして町民どうしに限らず、子どもからお年寄りまで、町外からも人が集まりたくなる都市づくりを進めます。

② 安全で快適に暮らせる都市づくり

災害などに対する安全性を確保して安心して暮らすことのできる都市づくりを進めます。近年、暮らしの中での快適性の考え方が、利便性や効率性の重視から健康や環境保護の重視などへと変化しつつあります。これからは町民の価値観の変化に対応しながら快適に暮らすことのできる都市づくりを目指します。

③ 自然を守り生かす優しい都市づくり

市街地の周辺は、海、山、川などの豊かな自然に囲まれ、農業、漁業、観光などの産業はこれらの自然の上に成り立っています。このため、生活雑排水など人が暮らしていることで生じる環境負荷を軽減し、人と生き物すべてに優しい都市づくりを目指します。また、これらの自然を享受し、その大切さを学ぶための自然にふれあえる場づくりを進めます。

④ 羽幌らしい特色のある都市づくり

羽幌町は、天売・焼尻の島々をはじめとして、産業遺産や食材など他の町にはない資源が豊富にあります。さらに、国道232号が結ぶ日本海オロロンラインの中にあり、その国道が市街地の中心部を通過するなど、町の活性化のために地理的にも有利な条件にあります。今後はこれらの利点を生かし、羽幌らしい特色のある都市づくりを目指します。

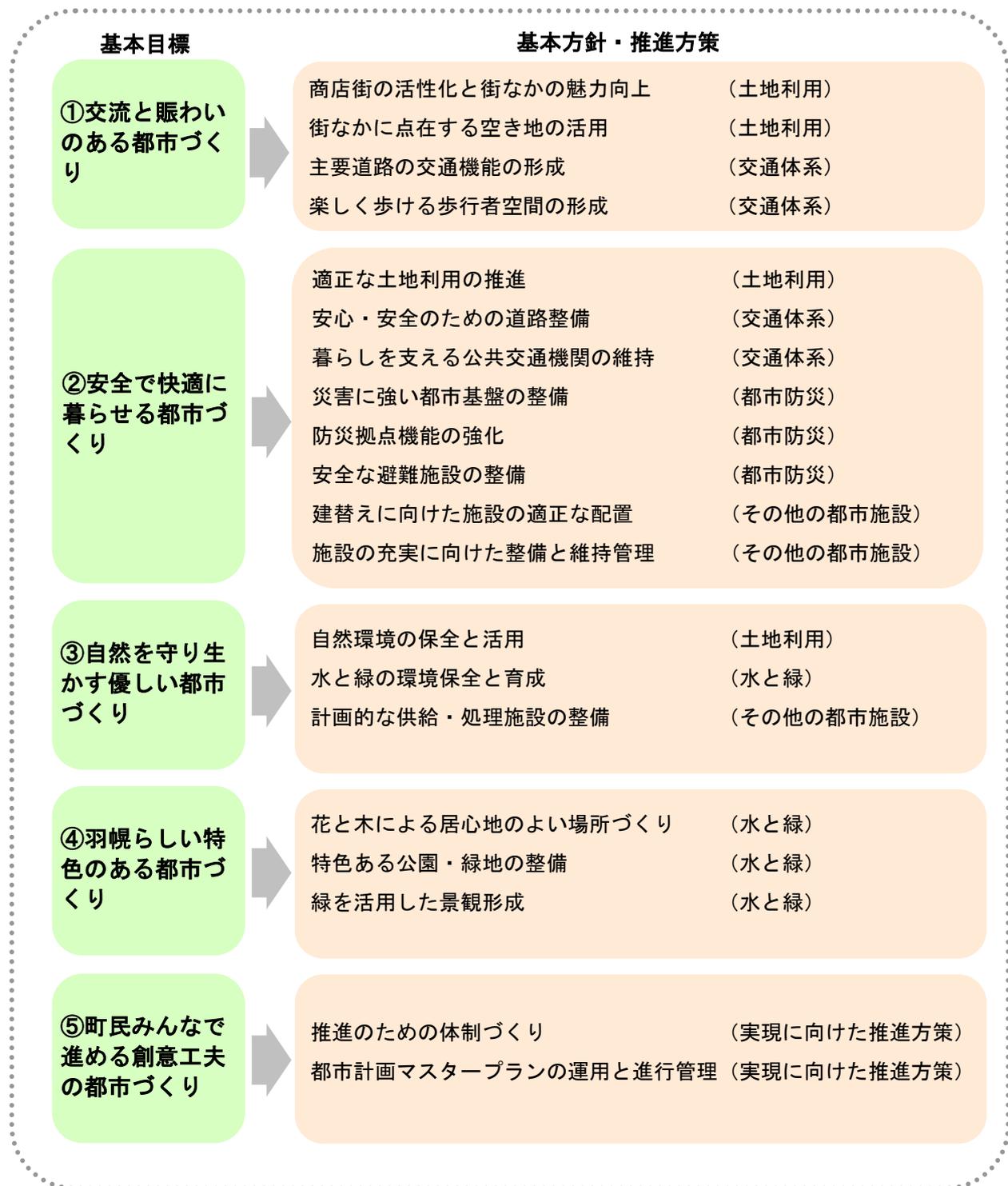
⑤ 町民みんなで進める創意工夫の都市づくり

町の財政を考えると、これからの都市づくりはお金をかけて施設づくりを進めるよりは、今あるものを有効に活用し、本当に必要なものを最小限の予算の中で実現していくことが重要です。このため、必要なもの unnecessaryなものを見極める目を養い、町民みんなの創意工夫によって都市づくりを進めていきます。

4 基本目標と方針の体系

基本目標と基本方針・推進方策の体系を以下に示します。

基本目標と基本方針・推進方策の体系

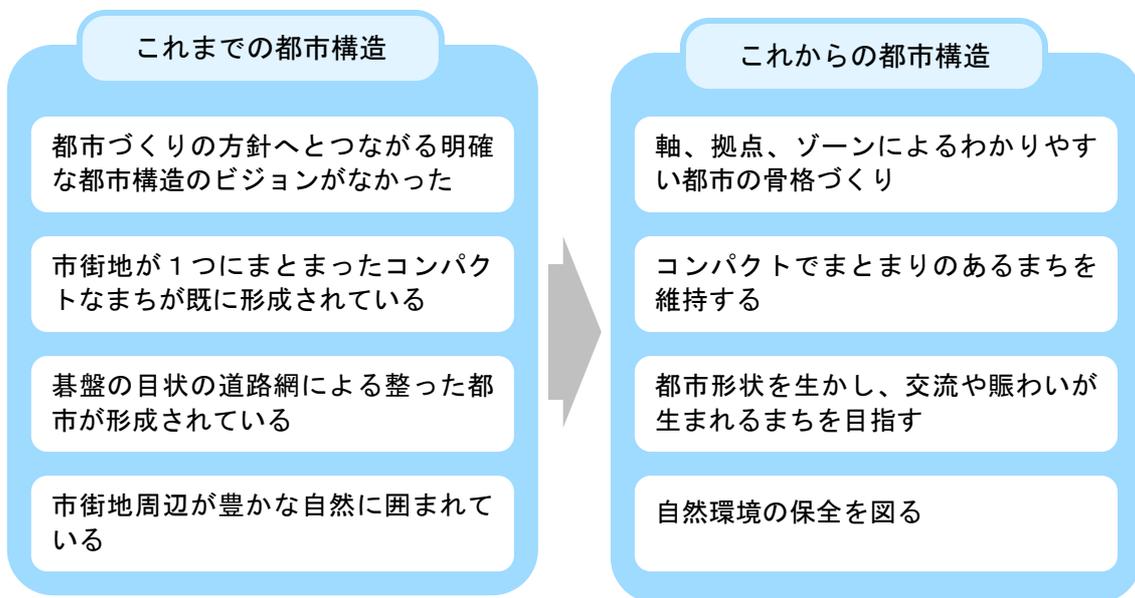


5 将来都市構造

今後の都市づくりに向けて将来都市構造の考え方を明らかにし、都市の構成要素である軸・拠点・ゾーンの視点から将来都市構造の設定を行います。

■将来都市構造の考え方

羽幌町は、市街地が1つにまとまったコンパクトな形状、基盤の目状の道路網、市街地周辺を取り囲む豊かな自然環境が大きな特徴となっています。今後はこれらの特徴を生かしつつ、魅力ある都市づくりを進めていくことが大切です。



■2つの軸

広域連携と交流の軸

国道232号と天売・焼尻航路を、近隣市町村と羽幌町を結ぶ広域連携、生活・文化・産業が行きかう交流の軸として位置づけ、都市の骨格を形成する軸としてこれに対応する市街地の展開を進めます。

ふれあいの軸

「道の駅ほっと♡はぼろ」「サンセットビーチ」「羽幌港」と市街地中心部を結ぶ線をふれあいを促進する軸として位置づけ、町民や観光客の移動を促進し町の活性化を図ります。

■ 3つの拠点

賑わいと交流の拠点

店舗や飲食店が集積する市街地中心部を賑わいと交流の拠点として位置づけ、町の顔として賑わいの創出と魅力ある街並みの形成を図ります。

海の交流と産業の拠点

フェリーターミナルや漁港の周辺を海の交流と産業の拠点として位置づけ、町民や観光客が交流を促進し、産業の活性化を図るための場づくりを進めます。

観光レクリエーション拠点

「道の駅ほっと♡はぼろ」周辺「サンセットビーチ」周辺、「羽幌公園」を観光レクリエーション拠点として位置づけ、観光とレクリエーション機能を高めます。

■ 3つのゾーン

市街地ゾーン

羽幌港周辺を除く用途地域区域内を市街地ゾーンとして位置づけ、快適で質の高い生活空間の形成を図ります。

海岸ゾーン

羽幌港を含めた海岸線沿いを海岸ゾーンとして位置づけ、海との関わりの中で羽幌町の特色を生かした観光・レクリエーション・交流・産業の促進を図ります。

丘陵・田園ゾーン

海岸ゾーンを除く市街地の外側を丘陵・田園ゾーンとして位置づけ、丘陵樹林地や農地の環境保全を図ります。

将来都市構造図



至初山別村

凡 例

【軸】

- ↔ 広域連携と交流の軸
- ⋯ ふれあいの軸

【拠点】

- 🔴 賑わいと交流の拠点
- 🔵 海の交流と産業の拠点
- 🟢 観光レクリエーション拠点

【ゾーン】

- 🟡 市街地ゾーン
- 🟠 海岸ゾーン
- 🟢 丘陵・田園ゾーン

天売島
焼尻島

国道232号

羽幌港

羽幌川

福寿川

至苫前町

0 100 500 1000m